１青くて痛くてい（住野よる）

―大学に入った「僕」は、授業で質問と称して自分の理想論をとうとうと述べる「痛い」女の子に出くわす。その直後、「僕」は食堂で彼女から話しかけられた。……

　（　Ａ　）を細め（　Ｂ　）を見せて笑った彼女はスプーンを（　Ｃ　）に取って、待ちに待ったごにありつくようにカツカレーを一口食ベた。ついその一連の動作を見てしまい、僕は目をそらして皿の上の魚フライにもう一度みついた。

　「腹ペコだったんだっ、授業中もおぐーぐー鳴って。もしかして聞こえたりしてたっ？」「あ、いや。」そんなのは気になりもしなかった。「それなら良かった。普段から結構食べるからさ、くんより食べててもひかないでね。」「健康的、だね。」「一応高校でサッカーやってて、①その名残。食べるの減らさなきゃとは思ってるんだけどねー。」

　［　Ⅰ　］というのは、つまり勝敗に重きを置くような強豪校ではなかったという意味なんじゃないかと勝手に解釈した。［　Ⅱ　］というのは、大学でサッカーをやるつもりはないということじゃないかと判断した。

　「田端くんは何か運動してた？　あ、ごめんね、いろいろずかずかいちゃって。」気遣いを、しようと心がけはする人のようだ。さっきの授業での出来事に鑑みて、人のテリトリーに土足で上がり込むタイプなのかと想像していたけど、②一応靴を脱ぐことはできるらしい。「全然、いいけど。運動は高校のときは特に何もしてなかった。」

　「文化系？」「帰宅部だった。」「大学でもなんにも入んない予定？」「かな、今のところは。あー、さんは？」

　「なんか入ろうかなと思ってるんだけど非公認サークルとかまで含めるとめちゃくちゃいっぱいあるから迷ってて、模擬国連とかちょっと興味あるけど。」

　「もぎこくれん？」僕のオウム返しに、秋好は「そうそう、いんだよ。」というハードルを上げた前置きから模擬国連について説明してくれた。

　秋好が聞かせてくれた話を簡単にまとめると模擬国連というのはどうやら、国際問題に興味のある人たちが集まっていろいろな国の代表になりきり、まさに国連を模擬的にやってみようというサークル活動らしい。なるほど、僕の中で彼女の人となりが少しずつ固まっていく感覚があった。

　「田端くんは、そういうのどう思う？」「難しいＲＰＧみたいな感じ、なのかな。」

　模擬国連については非難する理由も肯定する理由もなかったので、思ったことの中でそのどちらにも属さないものを口にした。すると今度は秋好が「てぃーあーるぴーじー？」とオウム返しをしてきた。③先ほどとほぼ同様の流れの中、説明しないわけにもいかず、僕は自分の考えなどをできるだけ挟み込まないようできるだけ単純にＴＲＰＧの説明をした。

　「んで、ゲームの中でそれぞれの役を演じる、みたいな、感じ、だと思うんだけど。」

＊語注

＊ＴＲＰＧ…「テーブルトーク・ロールプレイングゲーム」の略。コンピュータを介さずに紙や筆記用具・サイコロなどを用いて、対話しながらシナリオを創作していくゲーム。

問１　（　）Ａ～Ｃに入ることばをそれぞれ次から選び、記号で答えよ。

ア　腹　　イ　口　　ウ　歯　　エ　目　　オ　手

Ａ＝（　　　）　　Ｂ＝（　　　）　　Ｃ＝（　　　）

問２　――線部①について、どのような傾向が「その名残」だというのか。文中から五字で抜き出して答えよ。

〔　　 　　　　〕

問３　［　］Ⅰ･Ⅱに入ることばを、「秋好」の発言の中からそれぞれ指定の字数で抜き出して答えよ。

Ⅰ＝〔　　　 　〕（２字）

Ⅱ＝〔　　　　　 　　　〕（10字）

問４　――線部②は「秋好」のどの発言に対する評価か。一文の最初の五字を答えよ。

〔　　 　　　　〕

問５　――線部③について、「先ほど」のことが書かれている一文を文中から抜き出し、最初の五字を答えよ。

〔　　 　　　　〕

【解答】

問１　Ａ＝エ　Ｂ＝ウ　Ｃ＝オ

問２　結構食べる

問３　Ⅰ＝一応　Ⅱ＝食べるの減らさなきゃ

問４　あ、ごめん

問５　僕のオウム

ポイント

問４　「僕」は「土足で上がり込むタイプなのかと想像していた」が、実際はそうでもなく、無遠慮に他人のテリトリーに入り込んで「いろいろずかずか訊い」たことを、秋好は「あ、ごめんね」と謝った。

問５　「先ほど」は、「僕のオウム返しに」秋好が「そうそう、凄いんだよ。」と「ハードルを上げた前置き」をしておいて、僕の知らない「模擬国連について説明してくれた」。今度は立場が入れ替わって、秋好が自分の知らないことばを「オウム返し」してきた。